

特集3-1 金融経済教育の実践例 (消費者教育実践事例集)



ライフイベントすごろくで 家庭における経済計画を学ぶ



木戸 明美 Kido Akemi

京都府金融広報委員会 金融広報アドバイザー

CFP、1級ファイナンシャル・プランニング技能士。消費生活コンサルタント。2007年6月に京都府金融広報委員会から金融広報アドバイザーの委嘱を受け、生活設計や金融教育に関する講座を担当


生活設計は必要な知識

生活設計(家庭における経済計画)と聞くと、住宅購入や子どもの教育費などをイメージする人が多いかと思います。それらに老後資金を含めて人生の3大出費といわれていますが、生活設計を理解するうえでの難しさは、ライフイベント(人生で起きるさまざまな出来事)の内容とそれが起きる時期や必要とする金額が人それぞれ違っている点です。さらにそれは将来にわたって続き、現時点の意思決定が将来のお金の流れに影響します。各ライフイベントで、自分にとって最適な意思決定をするために、どのような観点で考えるかがとても重要となっています。

すごろく作成の経緯

学習指導要領の改訂で、大人でも難しい生涯の生活設計を高等学校の家庭科で科目の導入として扱うこととなり、かつ「主体的・対話的で深い学び」とすることが求められるようになりました。

教員から説明を受けてワークシートに記入するという従来の学習方法では身に付かない力と思われるためか、体験型教材としてさまざまな組織から学習教材が提供されるようになりました。高校からの依頼で生活設計の授業を行うに当たり、それらの教材を検討しましたが、1時限(50分)の授業時間内で教材を活用して依頼主である教員の意向を踏まえた授業の目標を伝え、次回からの授業に活かしていただくためには自分で作成する以外ないと実感し、オリジナ

ル教材を作成することにしました。毎回の授業で生徒の反応を踏まえて簡単に改良ができて安価で作成できるツールとして、ライフイベントすごろく(以下、すごろく)  を作成しました。

すごろくの特徴や進め方

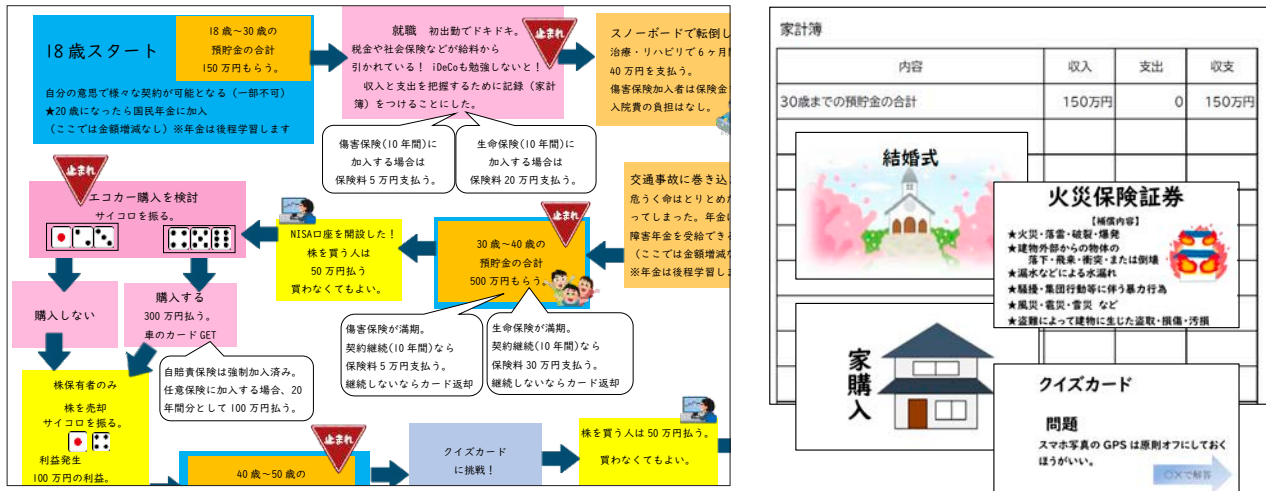
50分で授業をまとめるために、すごろく体験時間は1グループ3~4人で実施した場合30分で終了するように作成しました。

すごろくのスタートは高校卒業です。大学には進学せずに就職した設定で進めます。人生で起きるさまざまな出来事に気づくことを目的として作成したため、マスに記載した金額に関しては明確な根拠はありませんが、実生活とかけ離れた内容としないため、関西地方での平均的な価格なども参考に設定しました。多くの生徒が最終収支で赤字となることを避けるために、複数回の授業で活用して現在の金額に落ち着いています。全体を通しての収入は、給与収入額ではなく、10年間ごとの預貯金残高としました。

すごろくには次の視点を入れました。

- ①止まったマスの内容を家計簿に記入する
(ライフイベントの振り返り学習で活用するためと、お金の流れを見える化するため)
- ②模擬紙幣などのやり取りはしない
(時間短縮のため)
- ③社会保障・私的保障を知る
- ④株などの金融商品を知る
- ⑤消費者トラブルを知る(クイズを活用)
- ⑥住宅購入か賃貸住宅か選択する
- ⑦大学の教育費を知る

図 左：すごろくシート(一部)、右：家計簿、ライフイベントカードおよびクイズカード(一部)



③④については、50分の授業時間内で伝えることはできないため、次回授業への動機づけという意味でマスを作成しました。⑤は終了時間までの調整としても活用します。⑥は収入に見合う住宅購入や賃貸住宅の選択をすること、借金(住宅ローン)について考えるきっかけとします。

すごろくを活用した授業

すごろくを活用した初回の授業は、2021年に夜間定時制高校からの依頼で実施しました。

すごろくは、実際の人生と同じく、今後のライフイベントについて説明せずに開始します。サイコロの目によってさまざまな人生が展開し、止まったマスでの対応により同じグループの生徒たちと違う結果になることに気づきます。

最近では2024年2月に京都府立須知^{しゅうち}高校の西村教諭からの依頼で、1年生2クラス、2年生1クラスの計3クラスの家計基礎の授業で、各クラス2時限(50分×2)で実施しました。1時限目にすごろくを実施し、その後、すごろくのマスに記載された内容について、西村教諭からの質問に答えるかたちで授業を進めました。

今回は2時限の授業時間をいただいたので余裕を持って授業を進めることができましたが、通常は1時限でまとめなければいけません。特に何を伝えるかあらかじめ担当教員に確認して授業を進めます。

生徒や教員からの感想

須知高校の生徒の感想を紹介します。

- ・自分が実際にそういう状況になった時、どうお金を使えばよいのか考えることができた。自分で選択する重要性を体感できた。
 - ・すごろくの内容がだいぶ現実味があってすごかった。気を付けることの多さを知った。
 - ・自分が保険に入るメリットやリスクがはっきり分かって自分のためになった。
 - ・保険のことや賃貸住宅のことが将来役立ちそうだと思った。人生にはいろいろな選択があって、しっかり考えないといけないと思った。
- 西村教諭からは、「私自身とても勉強になりました。生徒達からの反応がよく、具体例を示して分かりやすく伝えてくださったおかげで消費生活に興味を持っていました」との感想をいただきました。

今後の展開

今後は、30分以内の体験用には記載できなかった内容を網羅したすごろくに改良することが目標です。

また、高校卒業後に学ぶ機会がほとんどないと思われる「家庭における経済計画」について、より分かりやすく学ぶことができるように、本すごろくの活用などを家庭科教員に働きかけたいと考えています。